



特定非営利活動法人アイキャン

2024年度 事業報告書

(2024年5月～2025年4月)

～人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」～

Not "for" the people, but "with" the people

アイキャンは、一人ひとりの「できること(ICAN)」を持ち寄ってよりよい社会をつくろうと、たった一人の会社員から始まった国際協力NGOです。

ビジョン (目指す社会)

誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会

ミッション (果たすべき役割)

- 1、多様な背景を持つ人々の声に耳を傾け、誰もが自らの可能性と社会が抱える課題に気づく機会をつくれます
- 2、その気づきを育て共有することで、課題解決に取り組む力を伸ばします
- 3、その力を持ち寄りつなぐことで、望む未来をともに目指します

行動指針

人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」。Not “for” the People, but “with” the People.

活動のお礼とご挨拶

アイキャン30周年 — 誰もが力を発揮できる社会へ、さらなる一步を —

2024年度、アイキャンは設立30周年を迎えることができました。この節目を迎えられたのは、いつも応援してくださる皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。

今年度は、元路上生活者であり、今は協同組合カリエの一員として活躍するフィリピンの若者を日本に招聘し、パートナーの皆さまと交流する機会を持ちました。カリエのメンバーが語った「路上で育った自分にも、社会を変える力がある」という言葉は、多くの方に勇気を与えたと思います。

30年の歩みの中で、フィリピンの紛争や災害、貧困といった過酷な状況下にある人々や子どもたちとの活動に取り組んできましたが、近年は日本国内で外国にルーツをもつ人々を取り巻く課題にも取り組んでいます。フィリピンと日本では個人を取り巻く環境は違いますが、どちらにも「自分には力がない」と諦めてしまう子どもたちがいます。アイキャンは、そのような子ども・若者に必要なのは「力を取り戻す過程(エンパワメント)」だと考えています。

今後も、私たちはこの理念をより深め、「どうせ自分なんて」と諦めさせる社会構造に抗い、「誰もが力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会」を目指して挑戦していきます。引き続き、皆さまとともに歩んでいけることを願っています。

事務局長 福田 浩之



SDGs*の達成を目指しています



*SDGs: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) …地球規模の課題に対し、2030年までに達成するべきとして国連が掲げる17の目標

スタッフ紹介

◆日本事務局



吉田 文



藤目 春子



庭田 美環



長谷川 薫



天羽 由実子

◆フィリピン事務所



Joan Javier



Mariditha Mondares



Gracilda V. Villamor



Roberto O. Roxas

パートナー紹介

◆「子どもの家」を運営する現地スタッフ



Marites E. Cangao



Riza May Colo



Renato S. Talle



Jonelyn P. Jamandre



Mary Jane G. Pacion



Jonel Tambologan



Rica B. Deblois

JonelとRicalは、協同組合カリエ*（参照P9, 11）のメンバーとしても活動しています！

役員一覧 ※順不同

- 代表理事** 鈴木 真帆（特定非営利活動法人アイキャン前事務局長代理）
- 副代表理事** 龍田 成人（創設者／工学博士／特定非営利活動法人アイキャン元代表理事）
- 理事** 宮脇 聡史（大阪大学大学院言語文化研究科准教授／文学博士）
- 檜木 隆彦（田園社会イニシアティブ株式会社代表取締役／美濃加茂市SDGs推進協議会アドバイザー）
- 稲葉 久之（フリーランス・ファシリテーター）
- 松浦 宏二（認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン理事／アイキャン元海外駐在員）
- 林 雅樹（ITコンサルタント）
- 阿部 真奈（アイキャン元海外駐在員）
- 福田 浩之（アイキャン事務局長、金城学院大学非常勤講師）
- 監事** 林 俊彰（税理士）

*協同組合カリエ：かつて路上生活をしていた若者で構成され、パンや菓子を製造販売するビジネスを運営。路上の子どもへの教育活動も実施。

パートナーの皆さま（2024年度 会員・寄付）

【会員】 正会員 19名、賛助会員 53名

【寄付】 53法人・団体、個人 1,886名（一般寄付者 581名、街頭募金寄付者 363名、物品収集寄付者 942名）

寄付による法人・団体のパートナーの皆さま *五十音順、敬称略

【ア行】 アース製薬株式会社、愛知工業大学名電高等学校、愛知美術研究所、一般社団法人 尼崎青年会議所、イオンリテール株式会社、エコリング春日井勝川店、株式会社エザックス、SPNP、株式会社エディット、オートサービスなかがわ、Orange Rainbow

【カ行】 貝沼製作所、かみひとねっとわーく京都事務局、Canva Foundation、株式会社9n、行政書士K.I.事務所、株式会社グラント、国土舘大学、認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）

【サ行】 採用商店株式会社、三承工業株式会社、ジーアセットプランニング株式会社、シマ鉄工、有限会社ショウテック、生活協同組合コープあいち、聖霊中学高等学校、ソフトバンクグループ株式会社

【タ行】 有限会社高神不動産、地球愛祭り静岡実行委員会、同志社高等学校、株式会社Travelish

【ナ行】 長野県上田高等学校、特定非営利活動法人名古屋NGOセンター、名古屋国際中学校・高等学校、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市立北高等学校、名古屋みらいロータリークラブ、名古屋YWCA国際交流会、有限会社西岬種苗、日蓮宗本正寺、日本郵船株式会社

【ハ行】 有限会社林工務店、Handi Craft Club、兵庫県立兵庫高校、ブックオフコーポレーション株式会社

【マ行】 道の駅 禅の里、株式会社ミュール、メナードフェイシャルサロン知立桜馬場

【ヤ行】 安井鋳金株式会社、株式会社矢田工業所

【ラ行】 株式会社Regalo、合同会社立花工学

【ワ行】 YNS株式会社

*個人のパートナーの皆さまにつきましては、情報保護の観点から、氏名の記載は割愛させていただきます。

参加ネットワーク

【正会員】 （特活）国際協力NGOセンター（JANIC）… 全国規模のネットワークNGO

（特活）名古屋NGOセンター … 中部地域のネットワークNGO

【賛助会員】 （特活）ジャパン・プラットフォーム … 緊急救援のネットワークNGO

（特活）フェアトレード名古屋ネットワーク（FTNN）…フェアトレードタウンの発展と認定の継続に向けた活動を強化するためのネットワークNGO

メディア掲載（17件）

毎日新聞 3件、中日新聞 9件、岐阜新聞 3件、読売新聞 1件、マニラ新聞 1件



助成事業

団体・機関名・助成金名	事業名・事業内容
公益財団法人 味の素ファンデーション	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善（3年次:2024年4月～2025年3月）
公益財団法人 パブリックリソース財団	フィリピン・マニラの路上の子どもたちの未来を作るプロジェクト（2024年5月～2025年4月）
真如苑	路上の若者グループ「カリエ」による、フィリピンの路上の子どもの課題の抜本的解決に向けた挑戦（2年次:2024年2月～2025年1月）
真如苑	路上の若者グループ「カリエ」による、フィリピンの路上の子どもの課題の抜本的解決に向けた挑戦（フェーズ2）（1年次:2025年2月～2026年1月）
公益財団法人 風に立つライオン基金	フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入の拡大展開準備事業（2024年4月～2025年3月）
公益財団法人 風に立つライオン基金	フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入の拡大展開準備事業（2025年4月～2026年3月）
中央共同募金会	岐阜県美濃加茂市における外国にルーツを持つ生活困窮者の支援を通じた重層的な支援ネットワーク構築と受援力強化事業（2023年10月～2024年9月）
中央共同募金会	住民主体の多文化共生地域福祉の推進と先進的な事例を波及させる手法開発のための実践研究（1年目:2024年4月～2025年3月、2年目:2025年4月～2026年3月）
中央共同募金会	岐阜県美濃加茂市の外国にルーツがある人々への課題提起型の日本語学習拠点の整備・運営事業（2024年10月～2025年9月）
電通育英会	自分事から始める共創型リーダーの養成と育成の仕組み化事業（2024年4月～2025年3月）
公益財団法人 ベネッセこども基金	地域連携による外国にルーツを持つ就学前の子どもの日本語・母語の教育環境整備事業（2025年4月～2026年3月）
ソーシャル・グッド基金	外国ルーツの若者への居場所の提供を通じたエンパワメント事業（2025年4月～2026年3月）
日本郵便年賀寄付金助成金	技能実習生等の居場所づくりと多文化理解交流会への展開（2025年4月～2026年3月）

補助金

団体・機関名	事業名・事業内容
孤独・孤立対策官民連携事業	フィリピンにルーツを持つ者を対象にした相談支援と参加支援の「のりしろ」としてのアウトリーチ活動（2024年9月～2025年3月）
名古屋市	社会課題を認識し、その解決を目指して自らのできることを実践する若者を増やす事業（2024年10月～2025年3月）
名古屋市	フィリピンの元路上の若者による講演会および交流会（2024年10月）

受託事業

団体・機関名	事業名・事業内容
特定非営利活動法人 ぎふNP0センター	女性のつながりサポート事業（2024年4月～2025年3月）
美濃加茂市まちづくり課	外国籍の保護者対象セミナー（2025年4月～2026年3月）
特定非営利活動法人 泉京・垂井	ひとり親家庭が地域とつながる本と笑顔の居場所プロジェクト in西濃（2024年5月～2025年2月）
Bri Asia合同会社	地域における初期日本語教育モデル事業（弥富市）（2024年5月～2025年3月）
どまんなか協同組合	外国人労働者受入れに係る業務（2024年6月～2025年5月）
株式会社オルタナティブツアー	ルミナライズスタディツアー：現地コーディネート（2024年7-8月）
株式会社オルタナティブツアー	合掌苑スタディツアー：現地コーディネート（2024年8月）
株式会社オルタナティブツアー	スタディツアー現地手配業務：アイキャン事業地訪問コーディネート（2024年8月、2025年3月：計2件）
特定非営利活動法人ブリッジ	美濃加茂市在住外国人の生活相談事業、及び多文化交流事業等（2025年5月～2026年3月）

会議の開催

1. 総会

- 日時：2024年7月27日（土） 開会 午前10時02分 閉会 午前11時20分
- 場所：名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5階 中部リサイクル運動市民の会内
- 審議事項：（1）第一号議案：2023年度事業報告書
（2）第二号議案：2023年度計算書類等
（3）第三号議案：2024年度事業計画書
（4）第四号議案：2024年度活動予算書
（5）第五号議案：定款変更

2. 理事会

第1回理事会

- 日時：2024年7月18日（木） 20:30～22:30
- 場所：オンライン
- 議案：2023年度事業報告書、2023年度計算書類等、2024年度事業計画書、2024年度活動予算書、定款の変更

第2回理事会

- 日時：2024年10月14日（月） 20:00～22:45
- 場所：オンライン
- 議案：事業報告（気づく事業、持ちよる事業、マーケティング・ファンドレイジング、組織体制の強化）

第3回理事会

- 日時：2025年1月28日（火） 19:00～21:00
- 場所：オンライン
- 議案：①報告事項：2024年度前期の事業・会計報告と後期の見込み、②相談事項：冬募金の状況と目標達成に向けて、③相談事項：次年度理事会体制について、④決議事項：組織規定の一部改訂について

「できること」に気づく事業

27 件の講演（日本）

認定こども園や中学校～大学までの教育機関やイベントにて、計27件の出張授業/講演会等を行い、NGOの活動意義や世界の現状及び課題について、約930名の方にお話をさせていただきました。



7 件の自主イベントを開催（日本）

対面またはオンラインでのイベントを7件開催しました。オンラインのイベントでは、児童養護施設「子どもの家」の子どもたちや、かつて路上生活をしていた若者で構成される協働組合カリエと参加者が交流しました。またカリエのメンバーが来日した際には、名古屋市内での交流会を行い、日本各地から53名が参加しました。



7 件の事務所訪問を受け入れ（日本）

7件の事務所訪問を受け入れ、計38名の方にアイキャンの活動等についてご説明しました。ご説明の後、街頭募金や寄付物品のカウント作業のボランティアをしていただいたケースもありました。



132 名が参加（フィリピン）

公募型のスタディツアーを8月と3月に開催した他、貸切ツアー、オリジナル研修、事業地訪問等を合計12回開催しました。小学生から社会人まで幅広い年齢層の方、計132名にご参加いただきました。



5 つのイベントに参加（日本）

計17名のボランティアの方にご協力いただき、5つのイベントでフェアトレード商品（フィリピン最大のごみ処分場があった地域の女性たちによる手作りのぬいぐるみや雑貨）を販売しました。



スタディツアー・海外研修

アイキャンでは、フィリピンの人々・子どもたちが抱えている課題を学び、解決に向けて行動していく人を増やすことを目的に、スタディツアーや海外研修の企画・実施・受け入れをしています。参加者は、アイキャンの活動地であるパヤタスごみ処分場や、マニラ首都圏の路上の子どもが多く暮らす地域を訪問し、住民や子どもたちと交流をしながら、世界規模の課題を知り、自分事として考え、そしてできることを行動に移していきます。2024年度は、一般募集のスタディツアーの他、ご家族貸し切り研修、3家族貸し切りスタディツアーなど、これまでにはない形での研修・ツアーの開催がありました。



<参加者の声>

スタディツアーは、自分たちが何かしてあげるものだと思っていたけれど、実際は現地の人々や子どもたちから何かしてもらったり教わったりすることが山ほどありました。言葉は通じなくても、子どもたちがいつも笑顔で私たちのところに来てくれて、エネルギーをもらいました。言葉の壁や立場の違いを感じずに、人と人の「心の交流」ができたと思います。他の参加者の方と一緒に良い経験ができて、本当に幸せでした。（Kさん）

参加して正解でした。たくさんの学びがあり、私が生まれた国、家庭環境に改めて深く感謝しました。しかし、悲しい現実を目の当たりにし、とてつもなく切ない気持ちで帰国したのも事実です。今回のツアーで、私は自分が強化すべきこと、そして必ず実行したいことを見つけました。路上で暮らす人々の生活の質が良くなるように頑張りたいです。（Hさん）

「できること」を増やす事業

14名の子どもの意見を施設運営に反映（フィリピン）

児童養護施設「子どもの家」では、子ども一人ひとりの課題を把握しサポート計画を立てるため、毎月の相談会議と四半期ごとのケア会議を行いました。また、子どもたちの声を施設運営に反映し、子どもたち自身が環境をより良くしていけるよう、定期的に子どもたちと話し合いの時間をもち、施設のルールを見直したり、要望を基に新しいルールを作ったりする機会をつくりました。



55名のリーダーを育成（フィリピン）

2023年度に協同組合カリエによるリーダー研修*を受けた若者リーダーらが、新たな3地域で路上生活を送る若者に研修を行い、55名のリーダーを育成しました。また、協同組合カリエと若者リーダーによる「若者リーダー会議」を2回開催し、今後の活動について協議しました。さらに一部の若者リーダーは、路上の子どもに対する「学び応援プロジェクト」などの自発的な活動を開始しました。



*リーダー研修：路上の子どもたちの模範的存在となり、子どもたちに路上教育（路上の子どもたちが自らの可能性に気づき、将来を建設的に考えることができるよう促す活動）を実施する「リーダー」を育成する研修。

12機関との連携構築（フィリピン）※P. 11の特集記事も参照

協同組合カリエと協力して、路上の子どもの問題解決に関わる政府機関、自治体、企業、NGOなどの関係者を分析し、それぞれに対してどのように働きかけるかの戦略を立てた上で訪問しました。その結果、今期は12の機関と良好な関係を築くことができました。また、路上の若者リーダーも参加する会議を開き、路上の子どもの課題解決に向けて「共同体」をつくることに合意しました。



72世帯の食行動が改善（フィリピン）

低栄養の子どもが多いマニラ市バセコ地区において、食行動改善を促進するツール（食事バランス表、食行動自己管理シート等）の作成・配布や、Facebookを活用して地域の保護者同士が食行動の改善のために励まし合える仕組みを作りました。その結果、72世帯が主食・主菜・副菜を含む食事を週5日以上実行するようになりました。



6 地域の保育園に波及（フィリピン）

給食活動を担う住民組織のメンバーと地域の保護者が協力し、地元で手に入る安価で栄養価の高い食材を使ったメニューを開発し、オリジナルの「レシピ本」を作成しました。あわせて、子どもや保護者が楽しみながら日々の食生活を見直せるように工夫した「食行動改善マニュアル」も制作しました。これらのツールは、他の都市貧困地域6か所にも配布され、各地域の保育園職員を対象に、住民組織のメンバーが実践的な活用方法（例：「野菜ビンゴ」など子ども向けの取り組み）を紹介するワークショップを開催しました。住民自らが学びを共有し、地域内外へと広げる取り組みとなりました。



9 名の共創型リーダーの育成（日本）

若者自身の内面にある“もやもや”や関心を出発点とし、社会課題に対して自らの意志で行動を起こす力を育むことを目的に、共創型リーダーを育成する研修を年間を通して10回行い、9名が参加しました。研修を通じて得た知見をもとに、複数の学生がプロジェクト（教育学部の学生による小学生向けの学習支援拠点の設立、発達障害のある学生同士の対話の場づくり等）を立ち上げました。



35 名の若者の居場所に（日本）※P.12の特集記事も参照

岐阜県可児市の駅前に夜間集まる中高生（多くはフィリピンにルーツを持つ）を対象に、居場所「チルカフェ」を22回運営し、35名（延べ373名）が参加しました。食料や生活物資を提供するとともに、何気ない会話を通じて若者の興味や関心を探り、若者が主体的に参加できるプロジェクトとして音楽ライブを実施しました。



5 名のインターン受け入れ（日本・フィリピン）

名古屋事務局で2名、フィリピン事務所では3名のインターンを受け入れました。名古屋事務局のインターン生は、街頭募金や美濃加茂市での多文化共生事業の補助等を担当しました。フィリピン事務所のインターン生は、児童養護施設「子どもの家」で子どもたちの課外活動を考案、実施したり、日本語学習のための教科書を作成して子どもたちが楽しく日本語を学べるような講座を行ったりしました。



<その他（フィリピン）>

◆フェアトレード生産者団体SPNPメンバーに対して、マーケティングや事業承継に関する相談対応を行いました。

特集：路上で生活する子どもの課題に取り組む「共同体」の結成に向けて

子どもたちが路上での生活を余儀なくされるフィリピン社会の構造を改善するため、アイキャンは中期3か年計画を策定し、2023年度から取り組んでいます。これにより、現地政府、企業、NGOが垣根を超えて協働し、子どもたちが路上に押し出されないための予防策と、路上で生活する子どもへの早期介入を行う体制をつくることを目指しています。2年目となる今年度は、以下の3つを中心に取り組みました。

①若者リーダーの育成

1年目に育成した若者リーダーの代表20名が、新たな3つの地域の路上で生活する若者55名を対象に、自己認識、子どもの権利、問題解決、リーダーシップ、コミュニケーションに関する研修を計15回（5回×3地域）実施しました（延べ195名参加）。この結果、現状を改善しようとする若者リーダーたちの主体性が向上し、エスコルタ地区では、研修を受けた若者たちが自主的に「学び応援プロジェクト」を立ち上げ、地域の路上の子どもたちに勉強の楽しさや教育の重要性を伝える活動を始めました。



②機関との関係構築

協同組合カリエのメンバーとともに、地域で路上の子どもたちの課題解決に責任や関心を持つ政府機関、自治体、企業、NGO等を2回にわたり分析し、自組織との関係性や制度・政策への影響力、資源を整理しました。各機関への働きかけの戦略を立て、カリエが主体となって訪問し、路上の子どもたちの課題に取り組む理由や、目指す姿とその実現に向けて必要な支援等を丁寧に説明した結果、自治体、警察署、ケソン市福祉課、社会福祉開発省、NGO等12機関から、今後の連携に前向きな姿勢が示されました。



③関係者会議

関係を築いた12機関から12名の関係者を招き、協同組合カリエと、これまでに育成した若者リーダー28名とともに「関係者会議」を開催しました。会議では、フィリピンの政策動向や各組織の取り組み内容を共有した後、路上で生活する若者が自らの経験を語り、子どもたちが置かれている現状への理解を深めました。その上で、参加者同士が今後どのように連携していくかについて意見交換を行いました。警察や自治体の関係者からは「子どもたちの声を直接聞き、行動する必要性を強く感じた」との声があり、最後には次年度以降の「共同体」結成に向けて、全員で団結式を行いました。



路上生活を経験した若者たちは、普段は行政職員や警察官の前で話すことに緊張や恥ずかしさを感じ、発言をためらいがちです。しかし関係者会議では、ある若者がこう語りました。「僕は路上で悪いこともしてきた。でも、僕たちがなぜそうせざるを得なかったのか、なぜ路上で生活しなければならなかったのか、その理由を知ってほしい。」彼の言葉には、その場の誰かを責める気持ちはありませんでした。ただ、より良い未来を一緒につくりたいという強い想いと希望が込められていました。

※本活動は公益財団法人風に立つライオン基金の助成により実施しました。

特集：外国にルーツを持つ若者が自分らしくいられる居場所づくり

2024年初め頃から、岐阜県可児市の駅前には夜になると多くの若者が集まるようになりました。可児市は、アイキャンが活動を行う同県美濃加茂市の隣に位置しており、両市は外国籍住民の割合がともに約10%に達する地域です。その中でも、特にフィリピンにルーツを持つ人々が最も多く暮らしています。

フィリピンにルーツを持つ子どもたちの多くは、小学校や中学校の時期に親に呼び寄せられて来日します。しかし、日本語が全く分からないまま学校に通うことになるため、授業についていけず不登校になるケースもあります。さらに、日本での生活が長くなるにつれて、日本語が分かるようになった子どもと、日本語が話せない親との間でコミュニケーションが取りづらくなり、子どもたちは家庭内でも孤立感を深めることがあります。その結果、学校や家の中で居場所がなく、夜になると駅前に集まるフィリピンルーツの中高生が増えています。



こうした状況を受け、アイキャンは夜回り活動を開始し、若者たちに声をかけてきました。話を聞く中で「家に帰りたくない」「高校は辞めた」と話す子もおり、将来に希望を持たずにいる現実が浮き彫りになりました。特に印象的だったのは、ある夜に出会った青年の言葉です。「夢？…特にない。どうせ（就職は）工場だし。」

本来なら可能性に満ちているはずの若者が、自ら選択肢を狭めてしまっている姿は、かつてフィリピンで私たちが出会ってきた路上の若者たちと重なりました。こうした若者たちに安心して過ごせる居場所を届けたい——その思いから、私たちは「チルカフェ」を始めました。

チルカフェでは、飲み物を片手に語り合い、カードゲームで笑い合い、ただのんびりと過ごすことができます。ここでは、若者たちが自分らしくいられる空気感を大切にしています。すると、何気ない会話の中で若者たちの本音がこぼれ出ます。「自分のことを理解してくれる人がほしい。」「音楽を作っている時が一番楽しい。」私たちは、このチルカフェを、若者たちが「やってみたい」と思うことに挑戦できる場にしていきたいと考えています。



ある日、音楽制作が趣味のフィリピンルーツの若者に「音楽ライブをやってみる？」と声をかけると、彼は嬉しそうに「やる！」と答えてくれました。準備には友人も協力し、司会も担当してくれました。ライブ当日には国籍や世代を超えて約40名が集まり、彼は日本語、英語、タガログ語の歌を披露し、会場は大きな拍手に包まれました。終演後、彼はこう語りました。「すごく緊張したけど、拍手をもらったり褒められたりして嬉しかった。もっと練習して、また挑戦したい。」



誰かに認められ、心から応援される経験は、若者の中に自信と意欲を生み出します。私たちアイキャンは、フィリピンで学んできた「人は支えられることで力を取り戻す」ということを、このチルカフェの活動でも活かし、若者たちが未来への希望を取り戻せるよう、これからも活動を続けていきます。

「できること」を持ち寄る事業

2 回の協議を実施（フィリピン）

フィリピンの子どもたちが路上に押し出されないようにするための制度づくりや環境づくりを進めるため、アドボカシー活動の下準備をしました。また、社会福祉開発省や子どもの福祉議会も参加する「路上で生活する子どもの保護と福祉に関する委員会」の委員長と2回にわたり打ち合わせを行いました。その結果、アイキャンと協同組合カリエが育成している若者リーダー、そして12団体で結成する共同体とこの委員会が今後連携していくことについて、委員長の合意を得ることができました。

3 企業との連携（フィリピン）

フィリピン現地3企業と連携し、路上の子どもたちや貧困地域の子ども、児童養護施設「子どもの家」の子どもに対して、栄養価の高い食事を提供しました。



878 件の物品寄付（日本）

2024年10月に郵便料金が値上げされましたが、未投函ハガキの収集活動では、昨年度より多い枚数のご寄付をお預かりしました。新聞やアイキャンの会報をご覧いただいた878名に加え、毎年ハガキ収集に協力してくださるコープあいち様を通じて2,067名もの組合員様からもお寄せいただきました。ブックオフコーポレーションと連携した古本等の収集活動「キモチと。」では、2025年3月に行われた5周年キャンペーンに参加し、年間で64件（15.5万円）のご寄付をいただきました。



123 名の街頭募金ボランティア（日本）

計86名（延べ123名）のボランティアの参加を得て7回実施し、通行人363名からご寄付を頂きました。夏の最も暑い時期には熱中症に十分注意し、必要に応じて「室内活動」への切り替えも検討しながらの実施となりました。



69 名の事務所ボランティア（日本）

名古屋事務所でのボランティアには、69名（延べ211名）の方が平均3.1回参加し、ご寄付として届いた未投函ハガキや未使用切手等の仕分け・カウント作業にご協力いただきました。



特集：岐阜出張所（美濃加茂市）での活動

外国籍住民の割合が10%を超え、その中でもフィリピン国籍の住民が最も多い岐阜県美濃加茂市において「誰もが住みやすく活躍できる地域社会」を目指して、以下の活動を実施しました。

①多言語相談窓口の運営と福祉や学校との連携

多言語相談窓口において、社会福祉士の資格を持つアイキャン職員が、生活上の困り事を抱えた人々の相談（フィリピン語・英語・日本語）にのり、延べ149件のケースに対応しました。内容としては、子どもの不登校、発達障害、メンタルの課題など福祉的な課題に関わる相談が昨年度より増加しています。そのため、今年度は福祉課や重層的支援体制整備事業の事業受託者との連携を深めました。月に1回開催される教育と福祉の連携会議に参加するとともに、福祉課や学校と連携して外国籍の家庭に訪問をしました。また、行政職員や福祉関係者を対象にした外国人支援や多文化共生に関わる研修を3回実施し、延べ114名が参加しました。



②誰もが気軽に交流できる地域づくり

誰もが困ったときに気軽に相談し支え合うことができる地域のために、フィリピン、ブラジル、ベトナムなど様々な国籍の人々が集まるおしゃべり会を開催し、30名が参加しました。参加者からは「美濃加茂市のここが好き」という声とともに、「もっとこうだったらいいのに」という意見も出され、特に、日本で長く暮らしていても地域住民との交流がなく、ここを故郷と感じられないという切実な思いが共有されました。また、外国籍住民の割合が高い古井（こび）地区では、フィリピンの社会背景についての講演と、フィリピン出身者が感じる「日本のなぜ」をテーマにしたワークショップを開催し、22名の住民が参加しました。この取り組みをきっかけに、12月にはクリスマス会を実施し、フィリピン、ブラジル、ベトナムをはじめとする52名が集まり、多国籍料理を楽しみながら交流を深めました。こうした活動を通じて、地域の中に国籍を超えた顔見知りの関係性が広がっています。



③外国人コミュニティの参加促進

外国にルーツを持つ人々が、地域で他の住民とともに主体的に活動し、コミュニティの一員として参加していけるよう、様々な取り組みを行いました。2025年2月にはコミュニティ・オーガナイズング研修を実施し、地域活動に取り組む住民27名が参加しました。参加者は、自分たちが大切にしている価値観をもとに課題を捉え直し、共感を広げて周囲を巻き込みながら解決していく手法を学びました。参加者の中には、この学びを活かして居場所づくりを始めたり、新たな地域づくり事業を立ち上げたりした人もいます。



また、フィリピンにルーツを持つ子どもたちを対象に学童保育を行う「KDC響きあい（KDC）」では、KDCに通う子どもの保護者や日本語教育に関心のある住民と4回のミーティングを行い、2024年8月に共同体を立ち上げました。その共同体の企画として、9月には「外国にルーツを持つ子どもたちの教育課題」をテーマにシンポジウムを開催し、50名が参加、美濃加茂市長も出席しました。

さらに、外国にルーツを持つ若者へのキャリア支援として、フィリピン人のロールモデルとともにプログラミング教室を2025年3月より開始し、4名が参加しています。

※本活動は中央共同募金会の助成により実施しました。

特集：岐阜出張所(池田町)での活動

岐阜県揖斐郡池田町の岐阜出張所(池田町)では、「世界とつながる場」「想いが集う場」「できることを実践する場」「新しいものを生み出す場」を目指し、以下の活動を実施しました。

①事務所の拡張

より多くの多様な方が気軽に集える場になることを目指し、わずか四畳半だった出張所を拡張しました。築65年ほどの納屋を、地域の方々のお力と、端材等のご寄付を活用しながら改修し、約12畳の土間と約9畳の板間スペースからなる出張所になりました。



②本のある居場所事業

拡張した出張所を、小学生や中学生などの生徒および、小さなお子様連れの方やご高齢の方、またシングルマザーや生きにくさを抱える人々等が自由に、気軽に集うことができる「本のある居場所」として運営しました。また、地域活動の活性化を目的に、地域ギター教室、ワークショップ、地域活動(サロン)の場としても活用いただけるようにしました。



③多文化共生社会づくり

地域の団体・企業と連携し、入国間もない外国籍の方への日本語教育、生活に必要な銀行口座開設、マイナンバーカード作成等の補助を行いました。また、今後外国籍の方を雇用される法人に対し、異文化理解およびやさしい日本語セミナー等を実施しました。その他、外国籍住民と近隣の中学校・高校を訪問し異文化交流を行ったり、オンラインでフィリピンと日本をつなぐ等の活動を実施しました。

④岐阜県女性のつながりサポート支援事業

ぎふNPOセンターからの受託で、様々な課題を抱える女性のサポート事業(居場所提供、サポート機関のご紹介、生理用品の配布等)を実施しました。

その他事業：自然災害に対する緊急救援

2024年7月25日、フィリピン・マニラ首都圏に接近した台風3号の影響により、アイキャンが栄養改善事業を実施しているマニラ市バセコ地区では大雨による浸水被害が発生し、多くの住民が避難を余儀なくされました。この状況を受けて、アイキャンは現地のパートナーである住民組織のメンバーと連携し、緊急救援として炊き出し活動を実施しました。大豆、バナナ、サツマイモを使った栄養価の高いお粥を提供し、避難生活を送る人々の命を繋ぐことができました。また、浸水により通学用の鞆やノートが使用不能となった子どもたちには、学用品一式(鞆、ノート、鉛筆、消しゴム等)を配布し、教育の継続を後押ししました。これらの活動により、バセコ地区の合計634名の住民の生活を支えることができました。



広報・ブランディング、ファンドレイジング、組織体制の強化

①広報・ブランディング

2024年度は、「誰に・何を・どのように伝えるか」を意識した発信強化に取り組みました。マンスリーレポートは年間を通して毎月配信し、平均開封率は31.3%と、業界平均を上回る結果となりました。特に、2025年3月号からは、従来の「ホームページへのリンク形式」から「本文に全文掲載形式」へ変更したことで、読者から「手間が減り、内容をすぐに読めるようになった」といったポジティブな声が寄せられました。

また、特定の広報目的に応じて、スタッフ個人からのメッセージを活用したことで、スタディツアーやクラウドファンディングへの協力を呼びかけた際に、通常より高い反響や寄付につながりました。これは、個人の人間性を前面に出すことで、組織への親近感と信頼感を高めた結果といえます。

SNSにおいては、インスタグラムとフェイスブックの投稿頻度と内容の質を改善しました。ビジュアル面では、一目で内容が伝わる画像や動画を多用し、ユーザーの興味を惹く工夫を重ねました。その結果、年間でフォロワー数はインスタグラムで181人、フェイスブックで65人増加しました。

②ファンドレイジング

名古屋NGOセンター主催「あなたの挑戦をサポートするNGO研修」に参加し、専門コンサルタントの伴走支援を受けながら、寄付促進の仕組みづくりを進めました。これにより、従来は「難しい」と感じていた手法にも挑戦し、発想の転換を通じた新しい試みに着手するきっかけとなりました。策定した施策は成果発表会で他団体と共有し、学びの循環にも寄与しました。

また、クラウドファンディングを6月～8月のカリエ来日支援、11月～1月の路上教育強化の2回にわたり実施し、いずれも目標金額を達成しました。加えて、カリエのメンバーと共同で実施したインスタグラムでのライブ配信（全6回）は、日本側のパートナーも登場する形で構成し、視聴者の広がりや深い共感を得ることができました。

さらに、ロータリークラブの例会にて2件の講演を実施しました。地域の経済人や市民団体とのネットワークを築き、今後の寄付や協力の基盤を広げる足掛かりとなりました。

③組織体制の強化

2023年度に策定した中長期目標を踏まえ、2024年は理事メンバーを交えた全体の振り返りと今後の方向性を共有する場を設けました。そこでは、2024年から2025年にかけての成果や前向きな変化を確認しつつ、今後の活動や組織としてのチャレンジについて意見を交わしました。特に議論が深まったのは、フィリピン事業の中長期的な持続性に関する課題であり、このテーマに特化した事業計画検討チームが新たに立ち上がりました。

ITやセキュリティに関する業務の自立的な運用体制の構築は、次年度への課題として持ち越されました。一方、会計については、年次予算をもとに月次で収支管理を行う体制が整い、財務の見通しと管理精度が向上しました。

業務を棚卸しして、事務局内で業務フローと担当者の見直しに関する話し合いを実施しました。全職員の業務を俯瞰的かつ網羅的に「見える化」するには至らなかったものの、業務改善への意識づけが進みました。今後は、日常業務の中で各職員が業務フローの非効率な点を指摘し合い、継続的な改善を図る体制に移行していきます。

募集しています

マンスリーパートナー

マンスリーパートナーは、月々1,000円（1日33円）から一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営に活用させていただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって「ともに」活動してください！



↑詳しくはこちら



1000円のご寄付で

例えば、6人の子どもの文房具一式を提供できます。



3000円のご寄付で

例えば、約60人の子どもの「路上教育」をする材料費になります。



5000円のご寄付で

例えば、貧困地域の子ども85人に栄養価の高い給食を1回提供できます。

未投函ハガキ等



未投函の官製はがき、未使用切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙がお手元にありますら、封筒に入れて、アイキャン日本事務局までご郵送ください。ハガキ1枚は、例えば、フィリピンの子どもが勉強するためのノート1冊分になります！



↑詳しくはこちら

リユース寄付（古本・DVD・ゲーム・おもちゃ等）



ブックオフコーポレーションと連携した、物品によるご寄付の形です。不要になった本や使わなくなったモノ等をブックオフに買い取っていただき、その買い取り額がアイキャンの活動に役立てられます。



↑詳しくはこちら



ホームページ



Facebook



Instagram

認定NPO法人アイキャン（ICAN）

【住所】

◆名古屋事務局

〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F 中部リサイクル運動市民の会内

◆岐阜出張所（池田町）

〒503-2406 岐阜県揖斐郡池田町宮地930 土川商店内

◆岐阜出張所（美濃加茂市）

〒505-0041 岐阜県美濃加茂市太田町2542-10 太田パークビル3階

【TEL&FAX】 052-253-7299（休業日：日・月・祝）

【E-mail】 info@ican.or.jp

【WEBサイト】 <https://ican.or.jp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ICAN>

【Instagram】 ican_ngo